

名寄高新聞

サッカー特集

北海道名寄高等学校新聞局

2020.9.24

発行責任者 内村太一

サッカー選手権地区予選:天塩川サッカー場

2試合29点の猛攻で圧倒

全勝で全道大会へ進出



速く巧みなドリブルでディフェンスをかわし駆け上がる樋口天斗君

令和2年度 第99回全国高校サッカー選手権大会北海道大会道北地区予選会・兼第31回新谷カップが、8月22日と29日に士別市天塩川サッカー場で行われた。

名高は22日に士別翔雲高校と、29日に名寄産業高校と対戦。士別翔雲には5-1、名寄産業には24-0と、攻撃的サッカーで相手を圧倒して2連勝。見事に優勝を飾り、



ゴール右から思い切りよくシュートを打つ秋元里玖君

10月に行われる全道大会への出場権を獲得した。

22日は士別翔雲と対戦。陽射しの強い暑い中での試合となった。名高は、GK・伊東柚輝君(3D)、DF・小笠原諒君(3A)、森海人君(2C)、小林航太君(2B)、内田涼希君(2C)、MF・鈴木太陽君(3A)、樋口天斗君(3A)、石川大智君(2A)、FW・秋元里玖君(2B)、三浦昂太君(3C)、佐藤有希也君(1B)のスターティングメンバーで臨んだ。

前半、名高は開始早々の2分に小笠原君が積極的にシュートを放ち流れを呼び込む。すると3分には樋口君のコーナーキックから佐藤君がシュート、6分には樋口君と佐藤君が連続でシュートを放つ。そして16分、秋元君がゴール前に上げたボールに、三浦君が合わせてヘディングシュート。ボール

はゴール右隅に決まり1-0。この先制ゴールで名高の攻撃に勢いが増す。

シュートを積極的に打ち相手を攻めたてる中、25分、ボールを受けた樋口君が巧みなドリブルで相手をかましゴール右前からシュート。ボールはゴール左に吸い込まれ2-0。

その後も主導権を握る名高は、秋元君、樋口君、鈴木君、小林君、佐藤君が次々とシュートを放つが、追加点につながらない。しかし33分、三浦君からパスを受けた秋元君がゴール前左からシュートし得点。3-0と士別翔雲を突き放す。

さらに35分には、フリーキックを得た樋口君が相手の壁が作られる前に素早く直接シュート。相手ゴールキーパーがパンチングで防ぐが、

キーパーの弾いたボールがそのままゴールに。4-0と駄目を押した。勢いの止まらない名高は、前半終了直前の39分、相手バックスが放ったバックパスを秋元君が奪う。巧みな



前線にボールを上げる小林航太君



中盤でボールをセーブする石川大智主将

フェイントでキーパーをかわしシュートを打つと、ボールはそのままゴールへ。名高は5-0と大きくリードし、前半を終えた。

ハーフタイムでは戦術を確認し、暑さ対策で水分を取るなど、選手たちは後半に向けて気持ちを新たにしました。

後半は、ゴールキーパーを伊東君から福富君(1A)に交代して臨んだ。試合開始早々、1分に三浦君がシュートを放つが、キーパーに阻まれる。その後も名高は樋口君、鈴木君、小林君、佐藤君が果敢にシュートを放ち、攻撃の姿勢を崩さないが、なかなか追加点を奪えない。21分、名高は選手交代で久保信弥君(1A)と大町悠馬君(1A)を投入するが、その直後、陣形が整う前に土別翔雲にシュートを決められ、5-1。

その後、樫谷琉汰君(1B)も投入し、果敢に相手ゴールに迫るが得点を奪えず。

守備では、体を寄せて相手にプレッシャーをかけ、キーパーの福富君も好セーブをみせて、失点を1点のみに抑えた。その結果、土別翔雲に5-1で快勝し、1勝を手にした。

29日は名寄産業高校と対戦。この日は初戦の快晴とは打って変わり、激しい雨でグラウンドがぬかるむ中での試合となった。

スターティングメンバーには初戦の佐藤君に代わり木口聖楽君(2A)がDFとして入り、初戦DFだった森君がFWにまわって試合に臨んだ。

前半、名高は6分に樋口君、7分に石川君、9分に秋元君が立て続けにゴールを決め、3-0と大きくリードする。その後も16分に石川君、18分に樋口君、24分に森君、29分と31分に秋元君、32分に鈴木君がゴールを決め、圧倒的な攻撃力で8-0と大量リードして前半を終えた。

後半、名高は佐藤君を投入し、さらに攻勢を強める。開始早々の2分に三浦君がゴール。



ディフェンスをドリブルで突破しようとする鈴木太陽君

その後、10分までに、秋元君が2ゴール、鈴木君が3ゴールを決め、14-0。16分には樋口君のコーナーキックを相手がオウンゴール。佐藤君は18分にゴールを決めると、20分にも樋口君のコーナーキックに合わせてゴール。17-0と一方的な展開となる。

中盤には選手交代で、大町君と大宮朝陽君(1B)を投入。その後も怒涛の攻めをみせる。三浦君が3ゴール、小林君、大町君、佐藤君、石川君がそれぞれ1ゴールを決め、後半だけで驚異の16得点。

その結果、24-0で名寄産業を一蹴して



土別翔雲のボールを奪いクリアする小笠原諒君

完勝。2勝0敗で優勝を飾り、全道大会への進出を決めた。

全員で最後まで走り切れた 石川 大智 主将

練習は基本的には特別なことはせず、普段通りの練習を行ってこの大会に臨んだ。

天候の差が大きい大会だったのでウォーミングアップでの体温の上げ方や走り方を気を付けた。

試合では、1人1人が声を出して、チームの雰囲気が高めることを意識しプレーし

ていた。常に盛り上がった状態で戦えていたと思う。チーム全員で最後まで走りきり試合ができたことがまず良かった。

そして、全道大会出場を決めることができてとても嬉しい。

全道大会では自分たちらしいサッカーをやり切って、何としても1勝したい。

全道に向け改善点見出せた 續 慎二郎 監督

練習は全道大会当日から逆算してメニューを計画して取り組んだ。

今回はしっかりボールを繋いで、相手に簡単にボールを渡さないことを意識した。また、今大会は全道に向けてどこを強化すればよいのかを見たり、改善点を見出す点でとても有意義なものとなった。全体的に

見て、選手1人1人が状況を意識してプレーしてくれるようになったことが大きな収穫点だった。

全道大会では、しっかりと状況判断したプレーをさらに増やすことができれば、名高初の記念すべき全道1勝を手繰り寄せられると考えている。